

VIEW

「C・Z編成のG・X編成への工程統一化」について申し入れ!

10月1日より実施された「C・Z編成の作業工程をG・X編成の作業工程へ統一」について職場で多くの問題が発生しています。問題について11月7日に関西支社に対して申し入れを行いました。

「C・Z編成のG・X編成への工程統一化」に関する申し入れ（主な内容）

- 「C・Z編成のG・X編成への工程統一化」により、G・X編成では発生しない余裕時分（10分）がC・Z編成ではなぜ発生するのか、その根拠を明らかにすること。
- 「C・Z編成のG・X編成への工程統一化」により、今までの予備検査時の側引戸検査（約20分）が機器検査時の側引戸検査（10分40秒）と機能検査時の側引戸検査（11分30秒）に分割され組み込まれた。
また、機器検査には側引戸検査（10分40秒）の他に車体傾斜装置4ヶ所の検査が追加され、機器検査時分は95分（10分増加）とされているが、機能検査にも加圧時の側引戸検査「Dコックカバーロック確認」「ブザー鳴動確認」「ロックシリンダー突出確認」（6分）、「側引戸機能確認」（5分30秒）の合計11分30秒が組み込まれているにも関わらず、機能検査時分はG・X編成の機能検査時分より10分短い75分のままとされている。
機能検査時分について見直しを行い85分に統一すること
- 「C・Z編成のG・X編成への工程統一化」により、C・Z編成の交番検査時分が10分短縮され、その10分の余裕時分の活用として「庫内の5S」や「事故防止集の読み合せや個人シートの提出」をやらせている。
しかし、「庫内の5S」は記録室からの移動時間がかかることや開始時間が遅くなった場合に「移動禁止合図の解除」時間に重なるなど危険性もある。
また、『新・これだけは忘れない』等の読み合わせも時間がかかり、いずれも10分程度では無理がある。
更に点呼での会社幹部の訓示や、作業遅れがあって機能検査開始が遅れた場合も同じように「10分の余裕時分の活用」がされている。「10分の余裕時分の活用」については記録室の5S程度にとどめること。

その他にも申し入れ項目があります。詳細は「J R 東海労新幹線関西地本」ホームページで!

みんなの声で職場をよくしていきましょう!!